

羅針盤



2018年1月5日(金) 第32号

＝ 1月のことば ＝

今起きていることはすべて、過去にあなたが行った選択の結果である。

(ディーバック・チョブラ (インド出身のアメリカの医学博士))

新年を迎え、将来を見据えた決意を固めよう

あけましておめでとうございます。生徒諸君、どのような思いで新年を迎えましたか？

小学生にとって定番の冬休みの課題と言えば『書初め』。元々は、平安時代の宮中で、元日の早朝に汲んだ神聖な水「若水」で墨をすり、年神様のいる恵方に向かって祝賀や詩歌を書いたことに由来します。『吉書』と呼ばれていたようです。恵方とは、その年万事に吉とされる方角で、毎年違います。今では『恵方巻』で有名ですね。江戸時代になり、寺子屋で普段の練習用の紙ではなく白いきれいな紙に書くようになり、庶民に広まったようです。その頃から、願いや決意を書いたりするようになっていったようです。書き初めで書いたものは『どんど焼き』で正月飾りなどと一緒に燃やすします。その煙に乗って年神様が天上に帰って行くとされる行事です。その炎が高く上がると字が上達するといわれています。

さて、12月20日に発行した羅針盤31号に次のような文章を書いたのですが、覚えていますか？

「1年の計は元旦にあり、という。自分の目標や計画を、ぜひ文字にして書き、自分の部屋の見えるところに張り出してほしい。自分のやる気を奮い立たせるために。くじけそうになる弱い自分を監視させるためにも。」

自分の目標を文字にしたり、人前で宣言することは、目標の実現や成功につながると言われています。なぜでしょう？

人は目的や目標が明確になっていれば、その達成方法や解決策を求めて行動する生き物だからではないだろうか。本能のままに生きているわけではない。例えば、ノートが欲しいから(目的)、文具店などに出かける(解決策と、その達成のための行動)。人生も同じです。《どんな自分になりたいのか》《どんな未来を手に入れたいのか》、それが明確になっていなければ、「ただなんとなく」

人生という貴重な時間を費やしてしまうのではないだろうか。逆に目標や目的が明確になっていれば、その目的や目標を達成するために人は動きだすものだと思うし、動き出そうとする力が湧いてくるのではないだろうか。ある人のエッセイに、このような文章がありました。

「“人生の目的は幸せになることでしょうか？”
と思うかもしれませんが、でも”幸せ”と言っても、幸せの定義なんて人によって違います。
“お金があることが幸せ”“家庭を持つことが幸せ”“権力を持つことが幸せ”などなど。
“自分にとって何が幸せか？”というところまで明確にする必要があるんです。あなたの人生の目的は、あなたオリジナルのものです。他の誰かと全く同じということはありません。他の誰でもない、自分の人生の目的を明確にしてみませんか？」

1月	曜日	行事等	朝学習
6日	土		
7日	日		
8日	月	成人の日	
9日	火	(40分授業日)	英語
10日	水		国語
11日	木		総合
12日	金		数学
13日	土	(センター試験) 週末課題:国語・英語、	
14日	日	(センター試験) 数学は通常通り)	
15日	月	※課題・プログレス提出	数学
16日	火		英語
17日	水	小論文講話	国語
18日	木		総合
19日	金	英検準会場受験)	数学
20日	土	進研模試 週末課題:英語)	
21日	日		
22日	月	※課題・プログレス提出	数学

本田技研工業（通称 ホンダ / HONDA）の創業者である本田宗一郎さんは、町工場のようなところで会社を始めた際、壁に「世界のホンダをめざす」という大きな張り紙を張り出していたというエピソードを聞いたことがあります。初心を忘れない。夢をあきらめない。実現のための勇気を奮い起こす。そういう狙いがあったのだろうと想像します。実際、彼は世界を驚かすようなオートバイや自動車を世に送り出し、「世界のホンダ」を実現しました。

今年、先輩になる。受験生になる。

まもなく高校受験が始まる。1年前、皆さんは何をしていただろうか。どんな思いを抱いて新年を迎えていただろうか。これから行われる入試を突破した後輩たちが、4月には18期生として入学してくる。君たちも先輩になるわけだ。どんな先輩になりたいと考えていますか？ 背中を追いかけたくなるような先輩になってほしいものです。

無事に進級し2年生となれば、もう進路目標を見据えて「受験生になる」準備をしなければならない。準備期間は短い方がいい。そして、早く受験生になってほしい。高校入試は、いわば地区大会だった。ところが、大学や短大の受験は一発全国大会だ。しかもスタートのピストルは鳴らない。もうすでに走り出している人もいると考えなければいけない。

こんな投書を見つけました（昨日の朝日新聞投書欄『声 voice』に掲載されています）。

日本国憲法の「改正」問題が、現実の政治課題として浮上しています。国会で議論され「改正案」が発議（国民への提案）されても、最後に決めるのは主権者である国民。国民投票によって決められます。皆さんも憲法に何が書かれているのか知り、考え、自分なりの意見を持つ必要があります。

投書には、現行憲法の制定に関りがあったとされる2人の福島県人が紹介されています。ちょっと調べてみるのもいいかもしれません。きっと新しい発見があると思います。

憲法に寄与した2人の鈴木

無職 山崎 健一
(福島県 72)

改憲の動きが強まっている。

現憲法が米国や連合国軍総司令部（GHQ）の押し付けという考えがある。しかし、私の故郷・福島には、日本国憲法制定に大きく寄与した憲法学者の「2人の鈴木」がいる。

まず、鈴木安蔵。京都帝国大学在学中の1926年、治安維持法違反第1号で逮捕され、獄中で憲法研究に目覚めたという。戦後、「憲法研究会」の中心として憲法草案要綱をまとめ、これがGHQの憲法草案に影響を与えたとされる。それ故

に安蔵は「日本国憲法の間接的起草者」と呼ばれている。

もう一人は鈴木義男。東北帝国大学教授時代、軍事教育に反対して辞職し、弁護士を経て46年に衆院議員になった。新憲法案審議中の帝国議会小委員会での「まず平和を愛好する」という発言「しよっじゃないか」という発言で、9条に「日本国民は……国際平和を誠実に希求し」というくだりが加わったという。福島第一原発事故で憲法が保障する諸権利は蔑ろにされ、国会では憲法の尊厳が貶められていると感じる。この2県人の業績を今こそ知るべきだと思う。

1/4
声